

や、花卉や園芸資材の購買意欲を高めるなど、地域産業の振興につながる取り組みにもつながります。

⑤ 緑花以外の楽しい取り組みを考える

「花づくりは人づくり、人づくりはまちづくり」と良く言われます。緑花グループに参加している方の中には、単に緑花活動を行うだけではなく、グループでの旅行や他の人との交流を楽しんでいる人もいます。

緑花グループの中には、「走る県民バス事業」を利用して、団体でバスツアーを企画したり、“連（れん）”を結成して島祭りに参加しているグループがあります。“楽しいこと”を考えることで、グループメンバーの活動への参加意欲を継続させる工夫も重要です。

【短期的取り組み】

○ グループではじめるパソコン教室

- ・ 行政が行う補助事業の申請に際しては、ワープロなどを使って申請書類の作成が求められる場合があります。また、インターネットメールを使って、メンバーと連絡を取り合うことで、グループの輪が広がるかもしれません。既に多くの無料教室が用意されているので積極的な利用が望まれます。

○ 花づくりの楽しみを増やす写真講習

- ・ 最近では、デジタルカメラの普及に伴い、緑花グループの方の中にはデジカメで撮影した写真をパソコンに取り込んで、メールで友人に届けたりする人が増えつつあります。美しく咲いた自慢の花壇は出来れば人に見てもらいたいものです。
- ・ デジカメとパソコンの得意な人が講師になって、デジカメを扱う人を増やしていくことが、花づくりを新たな楽しみにつなげることと思います。

■ ワークショップの意見（楽しいもの、無理をしない）

花づくり活動は本来“楽”しいものであるが、無理をすれば“苦”になり不平不満もでる。地区ごとの小さなグループで無理をせずに楽しむ花づくりが最高である。

また、グループ活動を維持継続していくためには「家族に理解があること」「無理な出費をしないこと」「無理な活動をしないこと」などが重要なポイントとなる。

(3) 人との・わざのつながり

これまで淡路では、花回廊計画を進める中で、行政が中心となり、緑花資材や花壇整備への補助または講習会等での技術や知識の習得・向上を図ってきました。しかし、この10年間に、緑花グループ自らによる講習会の企画運営や苗の育苗、余った苗の販売、フリーマーケットで活動資金確保など自立した活動の継続を目指した取り組みが生まれています。このように行政からの支援が直接的支援から間接的支援へと変化していくなかで、緑花グループは、活動を継続させていくために緑花資材や活動資金を自ら得る工夫をしなければなりません。

今後は、淡路が持っている緑花の資材・技術・知識を淡路島の財産ととらえ、各グループや花づくり実践者がその財産を共有できるしくみをつくりレベルアップを図っていきます。

これらの取り組みを進めていくと、風土資産や匠の力という淡路島が元来持っているものを掘り起こし、再発見できる効果も期待できます。

① 循環型の緑花を目指す

緑花活動を行うには花苗・土・水など緑花資材などの購入が必要であり、緑花グループが活動を継続するためには維持管理費用等の負担が一番の問題となっています。現在の緑花は一年草が中心であり、植え替え等に手間と費用がかかり、活動の継続に支障を来しています。緑花グループは、花苗やその購入資金の6割近くを県や市町からの助成に頼っており、それが途絶えると活動も途絶えてしまうというケースも見られます。

今後は、一年草中心の花壇から花木や多年草を使用した手間のかからない花壇への移行や、種から苗を育てて、また種へと返す取り組み、また育苗した苗や不要になった緑花資材等を必要とする団体へとつなげるしくみを作ります。

【短期的取り組み】

○ 種から苗を育てる

- ・一年草を用いた場合、開花期間を長引かせるための花摘みを行います。一部は花殻をつまず、種を採取し、苗を育てる取り組みを行います。またグループで1つ育苗施設を確保するよう努めます。工夫次第で、家庭の庭先など狭い土地でも十分な育苗ができます。そのためには、ビニールハウスなどの育苗施設

■ 種から花苗を育てる

ビニールハウスで種から花苗を育てて地域の緑花グループに配布しています。

(五色町緑花推進協会ほか)



ビニールハウスでの栽培

の設置やポットあげに必要なポットなどの支給について、行政が支援することが必要です。

- ・中長期的には、休耕田や空き地など、育苗の圃場などとして利用することが可能な場所を行政が仲介するしくみづくりを検討します。

■循環型緑花資材活用法

- ・苗：一年草をなるべく使わず、種から育てることや、宿根草、低木（花木）、地域に自生する植物を用いるなどして、お金のかからない花づくりを目指す。
- ・水：水のあまり必要のない種類や植える時期を工夫する。雨水を利用する（雨水タンク設置）
- ・肥料：落ち葉などから堆肥づくりを実施する
- ・緑花資材：廃材や間伐材を利用する、廃瓦の利用を行う

○ あわじもったいない市の開催

- ・ケニアの副環境相ワンガリ・マータイ氏が日本語の「もったいない」を世界に通じる環境標準語にしようと活動していますが、“環境立島”や“花の島”を標榜している淡路としては「もったいない」と花の資材の循環をつなぎあわせた「あわじ緑花もったいない市」を開催します。苗、土、水など、あるグループでは不要になったが、他のグループでは必要なものもたくさんあります。これら不要になった緑花資材を交換・販売しあいます。開催にあたっては、緑花グループや花卉産業者、造園業者などから協力を得て開催します。
- ・参加者については、島内のみならず島外からお客を招いて実施します。

○ 花メーリングリストの配信による花苗・情報交換

- ・これまでは情報を手に入れる手法としては仲の良い個人やグループ間または講習会や交流会での情報交換といった方法が主で、タイムリーな情報を一元化して提供・入手できるしくみがありませんでした。
- ・そこで、緑花グループが持っている花苗や不要となった緑花資材などの情報、イベント等のスタッフ募集情報を集約し、定期的にメーリングリストで配信することでタイムリーにグループ同士の苗の交換、お互いの助け合いなどを促進します。

② 活動資金・資材を確保する

緑花グループはこれまで多くが行政からの物的支援に頼っていたため、自立して活動を継続させていくためには、いかにして活動資金を確保するかが課題となっています。一部の団体では、会費を徴収する、苗の販売を行うなどして、自己資金を獲得し、経済的基盤を確立しつつあります。今後は、このような取り組みをさらに推進し、直接緑花に関する活動の資金（花苗、緑花資材等の購入費など）は、自ら獲得できるような取り組みを進めます。また行政は、広報活動や研修旅行開催などの間接的な補助や公共の花壇の管理委託など、受手側に裁量性のある資金提供へと切り替えていきます。

【短期的取り組み】

○ 資金確保の取り組み

- ・自主的な活動を継続して行うためには、自己資金の確保が必要となります。資金の確保のためには、下記のような取り組みをするとよいでしょう。

■ 資金確保の例

○ 実際緑花活動に係る経費は、

- ・地域のお祭りや日曜市などでの苗等の販売。地域のお祭りなどで苗を販売することは、資金の調達だけでなく、自らのグループの活動をPRすることができます。
- ・花や緑にまつわる絵画や写真、木工細工を販売するなど各団体が創意工夫してコミュニティビジネス（販売）を行う。コミュニティビジネスを支援する補助事業もあります（経済産業省補助事業）。

○ 郵送料や広報の費用、研修旅行の資金などは、

- ・走る県民バス事業や緑花に関する補助だけでなく、緑花グループに対する助成の活用ができます。

例) 住民組織育成事業

ひょうご環境創造協会スタートアップ事業

- ・民間企業や財団法人が行っている環境保全活動への補助金等の利用。インターネットなどで情報公開されています。

<http://www.jfc.or.jp/>（財団法人助成財団センター）など

○ 県民緑税の活用

- ・兵庫県では平成18年4月から導入する県民緑税を活用して、「県民まちなみ緑花事業」を実施します。「災害時に避難路となる沿道の植樹に取り組みたい」「河川敷に桜並木を作りたい」というよう

■ ガレージセールで自己資金確保
ガレージセールなどを開催し、自己資金を確保、自立した取り組みを目指しています。（湊ひまわり）



ガレージセールの様子

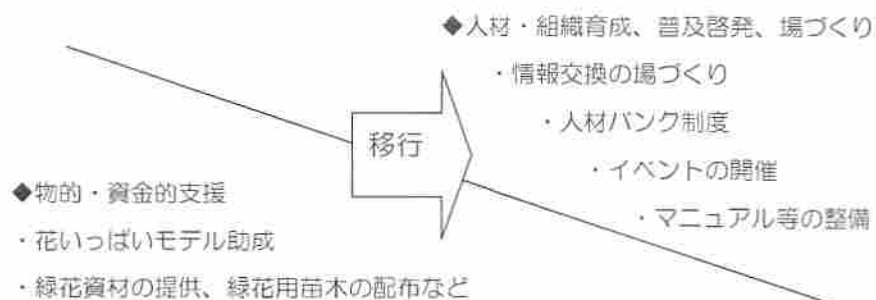
な住民の要望を取り入れた緑花計画を市町が策定し、資材提供により住民を支援することで、緑豊かなまちなみの実現を図ります。

【中・長期的取り組み】

○ 補助制度の見直し

- ・緑花資材や活動資金の補助は活動のきっかけとしては有効な手段ですが、いつまでも継続する支援ではありません。今後、行政は、活動の継続・発展を間接的に支援する視点に立ち、現物支給や資金援助等の支援から、人材育成や組織育成、普及啓発・場づくり型の支援へと移行を検討します。

■ 行政の補助制度の今後の考え方（ひょうご花と緑の懇話会報告書より）



○ アドプト制度の積極的な利用と施設花壇の管理委託の推進

- ・道路や公園などの公共施設を住民の緑花グループが維持管理することと引き替えに、道具や保険などを所有者側が負担する「アドプト制度」の積極的な利用を進めていきます。
- ・将来的には、公園等の公共施設の花壇をグループに管理委託することを推進していきます。創意工夫のある花壇づくりが推進されるとともに、緑花グループは資金を獲得するという効果を上げることができます。行政は、任意の緑花グループへ委託できるしくみを検討するとともに、緑花グループは資金獲得の一手法として管理委託が受けられるように技術のレベルアップおよび組織体制を整えます。

■ 国道28号のアドプト活動

国道28号では、ボランティアサポートプログラムとして地域の緑花グループが道路の維持管理を行っています。
（南あわじ市老人クラブ連合会緑支部）



住民による沿道管理

■ 公共花壇の管理委託の推進

行政から委託を受けて、公共施設の花壇の維持管理を行っています。（三原花づくり人づくり推進会ほか）



委託を受けて管理している花壇

③ 淡路の緑花匠のわざを継承する

淡路の気候や風土に適した緑花を進めていくためには、淡路で実践している緑花の匠のわざ（ノウハウ）を次の世代に伝えることが必要です。また、自らが住む地域のことをよく知り、歴史や風土、生活文化面や独自性など地域らしさを緑花に活かすことも必要です。そこで、匠の技を伝える講習会、淡路らしさを再発見するための取り組みを行います。

【短期的取り組み】

○ 水やり技術の創意工夫

- ・ 雨の少ない淡路での水やりは負担の大きい作業です。タンク等を設置し、水やり技術の創意工夫を行います。また、行政はタンク設置等の初期投資への支援を考える必要があります。

○ お互いに持っている技術を紹介する「セミナー・講習会」の開催

- ・ 各団体が実施している成功事例や、地域の風土に適した草本や低木類を用いた緑花を推奨し、地域の地場産品を緑花資材に活用（例えば、淡路瓦を花壇材の一部に活用）するなど、地域らしさを表現するための創意工夫を行っている事例や技術をお互いに紹介しあうセミナー・講習会を実践します。

○ 緑花技術講習会の開催による人材育成

- ・ 地域の緑花グループの中には、造園会社に勤務経験がある、または育苗施設を持ち、趣味の域を超えて緑花活動を実践されている方がおられます。このように緑花に関する豊富な知識、育苗等の技術を持った方が講師となって、地域の緑花グループの技術レベルを高めるための講習会を開催します。
- ・ これまで行政の開催する講習会の中には、参加人数を確保するために苦勞しているようなものも見受けられましたが、今後は企画の進め方を見直す必要があります。例えば、緑花グループが外部から講師を招いて講習を受ける必要がある場合は、参加者、開催日時及び受講テーマを決めて行政に依頼し、行政はその要望を受けて、必要な時に必要な講習会を開催するという仕組みに変えて行く必要があります。

■ 簡易タンクで水やりの工夫

手作りの簡易タンクを設置して、水やり作業の負担軽減を行っています。

（グリーンネットあなが）



簡易タンクの設計図

■ 緑花グループ主催の講習会

緑花グループの中で、緑花に関する豊富な知識と卓越した技術を持つリーダーが、地域の緑花活動者を対象に、技術講習会を開催しています。

（北淡花づくり友の会）



技術紹介講習会の様子

○ 技術指導者の育成

- ・淡路に自生する植物や、緑を活かした花壇づくりに取り組むためには、専門的な緑花の知識や技術が必要となります。淡路には人材養成のための県立淡路景観園芸学校があり、まちづくりガーデナー本科コース以外にもテーマコースとして、「土づくり」「タイプ別のガーデニング」など様々な知識を得るためのカリキュラムが用意されています。積極的にこれらのプログラムを受講して自己啓発に務めることも必要です。

2 継続的な緑花の推進のしくみづくり

淡路地域においては、淡路花博以降、飛躍的に増加した緑花グループと行政が連携する仕組みとして、必然的にほぼ全ての市町域（合併以前）単位で“協会”“交流会”“推進会”といった形の緑花団体が存在しています。

例えば、「花づくりネットワーク西淡」は、旧西淡町の緑花グループのリーダーが集まって結成した組織であり、地区内の緑花グループの立ち上げの世話や、行政の助成金申請のお手伝い、さらには自ら広報紙の発行も行っています。また、旧東浦町の緑花団体である「花でまちづくり協会」では、会長が講師を務めて花づくりセミナーを開催したり、行政から補助金をもらって地域の花マップを作成したりしています。しかしながら、これらの緑花団体の存在は市町レベルに留まり、その活動がクローズアップされることがないまま現在に至っています。

今後、行政と緑花グループがこれまで以上に連携を深め、より効果的な活動を推進していくためには、これらの緑花団体の存在を顕在化させるとともに、緑花団体、行政、花づくり関係機関がお互いをネットワークで結びつけることが重要であると思われます。

(島内に存在する緑花団体 (H17.10.月時点))

市町名 (旧市町名)	組織名	参加団体数	備考
淡路市	(淡路町)	岩屋公民館花と緑の会	9 団体
	(北淡町)	北淡花づくり友の会	27 団体
	(一宮町)	一宮花と緑の協会	23 団体
	(東浦町)	花でまちづくり協会	21 団体
南あわじ市	(緑 町)	緑花づくりを楽しむ会	7 団体+97 名
	(西淡町)	花づくりネットワーク西淡	20 団体
	(三原町)	三原花づくり人づくり推進 会	70 団体
	(南淡町)	南淡花づくり交流会	17 団体
五色町	五色町緑花推進協会	51 団体	
島内全域	アルファグリーンネット	—	緑花団体ではないが、いずれも広域で複数の緑花グループで活動している
島内全域	バーベナあわじ	110 名	

(1) 推進体制づくり

① 緑花活動に携わる者の話合いの場「あわじ総合緑花プラン推進会議」の開催

淡路の約700ほどの緑花グループは、それぞれ地域に根ざしており、限られたエリアで活動を行っているケースがほとんどです。地域に根ざした団体は、今後も地域内で活動することが基本になりますが、困ったことが起こった場合、他の団体と情報を交換し、時には助け合いながら進めることで活動がうまく行く場合もあります。このように、団体・個人が持ち合わせている力を集合し、ネットワークの中で活動することにより、実現可能な範囲が広がります。

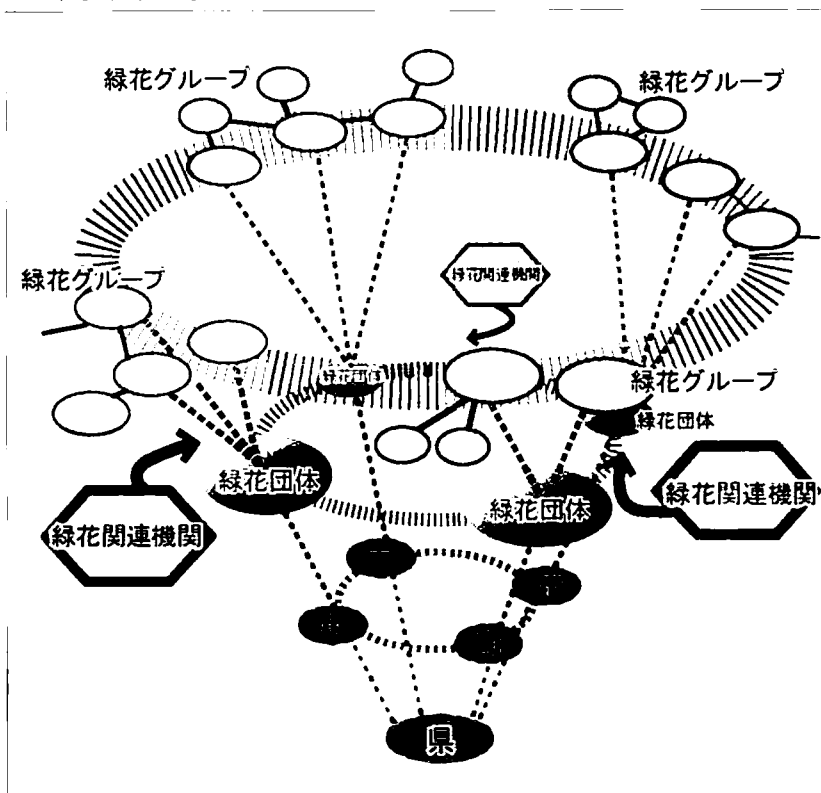
このプランを策定するにあたって開催したワークショップの中でも、「情報交換の場を創設して欲しい」「行政の助成メニューの情報が届かない」などの意見が多く聞かれました。また、緑花関連機関ヒアリングにおいても、「緑花グループの情報欲しい」「市町域を越えた連携が必要」などの声も出ています。

そこで、今後は、緑花グループで構成される緑花団体、緑花関連機関、行政が、情報等持っているもの共有しあい、お互いが話し合うための場づくりを進めます。

■ワークショップの意見

淡路の緑花を推進していくためには、行政サイドの意識改革も必要。共に緑花推進に取り組む意識・意欲を共有して欲しい。

■ネットワークのイメージ



【あわじ総合緑花プラン推進会議（仮称）の概要（案）】

1 会議開催の目的

あわじ総合緑花プランの目標である「公園島淡路」の実現のために、緑花グループの中核的存在である緑花団体、緑花関連機関及び行政が対等の立場で話し合う場を設置し、積極的な情報交換、意見交換を進めながら花と緑にかかる施策を効果的に推進する。

2 推進会議のメンバー

メンバーは原則として、緑花団体、緑花関連機関及び行政で構成する。

- ①緑花団体：各地域において、市町のパートナーとして、地域の緑花グループを取りま
とめて活動する緑花グループ、全島で緑花団体としての役割を担うNPO等
- ②緑花関連機関：県立淡路景観園芸学校、財団法人淡路花博記念事業協会、社団法人兵
庫みどり公社、淡路島観光連盟、NPOあわじ緑花協会等
- ③行政：県及び市町の緑花担当課、公園等施設管理担当（県立淡路香りの公園等）
- ④その他：会議の内容に応じて随時必要な機関、団体及び個人の参加を呼びかける。

3 開催回数

- ・年4回程度（四半期毎）

4 会議で議論する内容

（緑花団体の立場から）

- ・行政、緑花関連機関に対して活動継続に必要な支援策の提案
- ・行政、緑花関連機関の実施する緑花事業についての提言
- ・緑花グループ間の交流、情報交換 など

（緑花関連機関の立場から）

- ・花とみどりのコンクールや講習会実施等の緑花グループへの情報提供
- ・コスモス駅伝等のイベント実施に際しての緑花グループへの協力依頼 など

（行政の立場から）

- ・行政が実施する助成事業の情報提供
- ・行政の緑花施策立案のための緑花グループからの意見収集
- ・緑花関連機関との情報交換、事業調整 など

【短期的取り組み】

○ あわじ総合緑花プラン推進会議の開催

- ・旧の市町単位で活動する緑花団体、財団法人淡路花博記念事業協会などの緑花関連機関、行政による情報交換の場から始めます。このプランの目標や取り組み内容を共有し、緑花グループ、緑花関連機関、行政が一体になった効果的なプラン推進を図ります。
- ・立ち上げ当初は、本プランの取り組みメニューを具体化していく第一歩として、普及しやすく、優先度が高いモデル的な事業を戦略的に検討し、地域で進めていきます。

【中長期的取り組み】

○ 様々な実行委員会などによる緑花活動の展開

- ・中長期的には、全島でプラットフォームの構築と運営のしくみづくりを行います。プラットフォームは分野に限らず誰でも参加できる場で様々な情報交換を通じ、ニーズとシーズをマッチングしながら、全島的なプロジェクトを企画・実施していきます。地域ビジョンなど他の「場」とも連携を図ります。
- ・緑花団体、緑花関連機関、行政が連携し、事務局体制を整えます。
- ・緑花グループだけでなく、自治会や老人会などの地域密着型コミュニティや自然保全、環境教育に関心の高いテーマ型のグループなどとも情報を交換し、地域の課題について取り組んでいきます。

■ プラットフォームで生み出されるプロジェクト例

- ・オープンガーデン
- ・花のC I 計画
- ・グリーンマップ（G I Sで共通管理）
- ・北部地域で農地活用
- ・里山から花壇への循環プロジェクト
- ・観光促進の取り組み

② 緑花団体の体制強化

緑花グループのネットワークを作っていくためには、団体間を調整したり、情報を発信したり、仲介するなどの役割が重要になってきます。このような役割を既に担っているのが前掲の緑花団体ですが、事務局機能を行政に置く

ものの活動実態があまりない組織も見受けられます。また、一部ですが緑花団体自体が存在しない地域もあります。当初、市町主導で緑花団体を設立し、かつ市町の緑花担当課が事務局機能を持ったままにしているなど、市町の支援なしでは活動が困難なところも約半数にのぼります。

今後は、あわじ総合緑花プラン推進会議などの場での情報交換を通じて、既に自立して活動している緑花団体から学ぶなど、緑花団体全体のレベルアップを図ります。また、地域の緑花グループで必要な花苗を緑花団体が集約して育苗をしたり、行政からの情報を伝達したり、外へ情報発信していくような活動を支援する施策を進めます。

【短期的取り組み】

○ 地域で核となる緑花団体の継続と育成

- ・すでに活動されている緑花団体を継続するように行政は支援します。また、組織がない地域は育成を図ります。

【中長期的な取り組み】

○ あわじ総合緑花プラン推進会議の事務局機能の移行

- ・あわじ総合緑花プラン推進会議は、当面は行政が事務局を務めますが、会議の進行や招集、話し合うテーマの設定などの役割をゆるやかに緑花団体側に移行させていくことを検討します。使い手のいない助成メニューや参加者のいないセミナーの開催などをなくしていきけるように、現在は行政内部で立案・実施される様々な緑花事業なども、緑花団体側からの要望にもとづいて予算化されたり、フォーラムやセミナーなども緑花団体が企画するものをそのニーズにあわせて、行政側で実現するような協働のあり方をめざします。

■市町合併に伴う新しい動き

南あわじ市では、旧4町の花づくり組織の一本化を目指して、4町合併直後から行政と組織の代表者による協議が始まっています。旧4町ごとのこれまでの関係を整理しながら、新会則の作成や行政と組織の役割分担などの取り決めを行い、平成18年2月から新しい組織がスタートする予定です。

■組織運営の事例（宝塚メリーポピンズの会（市民園芸ネット））

- ・メリーポピンズの会は宝塚で活動する市民園芸グループのネットワーク組織で、6つの花壇のグループと事務局があります（うち、1箇所は育苗場）
- ・ボランティア活動でありながら、継続的に活動をするため、資金確保や仲間広げるための工夫をされています。
- ・1つ1つの花壇は独立しながらも、事務局が要となり、全体で人手の調整を行ったり、予算計画を立てるなど、個々の独立性と全体のネットワークのバランスをうまく保っています。
- ・直接緑花活動に関係がなくても、日用大工、絵画、写真撮影など持っている技術を出し合っています。
- ・HP、ニュースレターの作成など広報を担うセクションが情報発信も実施しています。



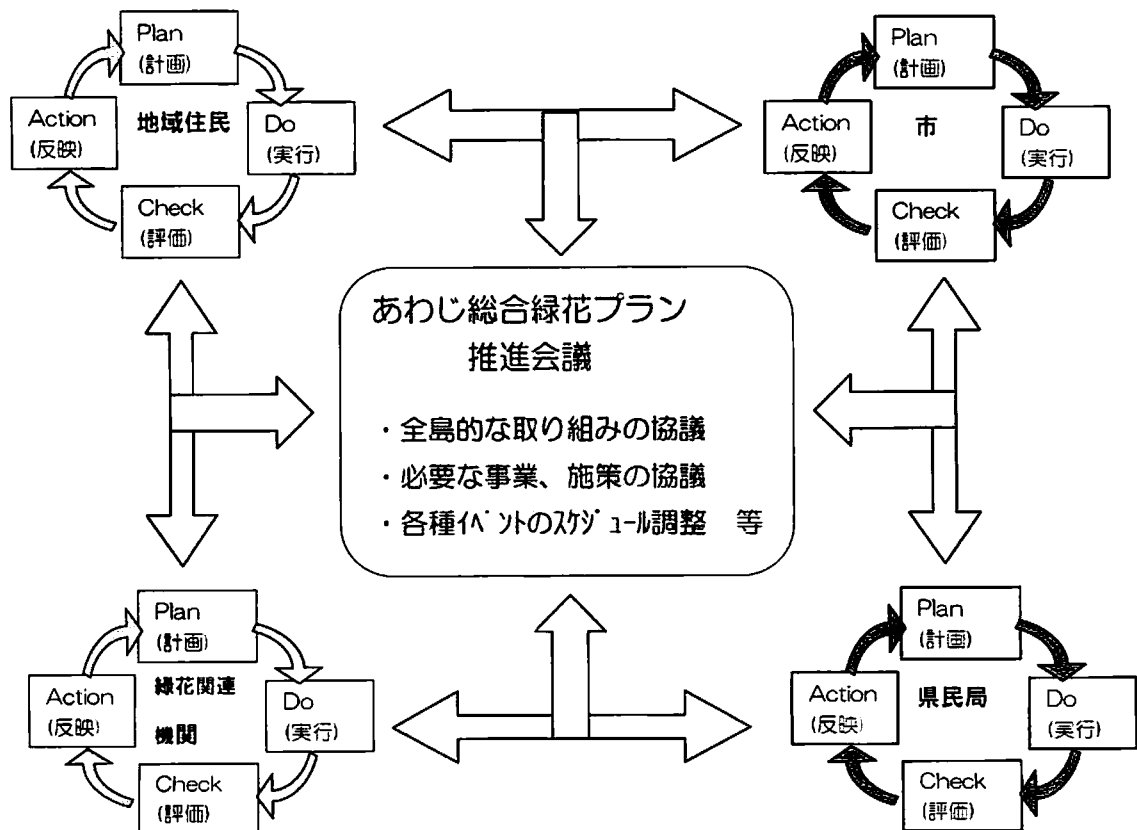
(2) 「あわじ総合緑花プラン」の進捗管理のしくみづくり

このプランは、地域住民、緑花関連機関、行政のそれぞれが、緑花に関わる活動を企画、実行する際の指針として位置づけられています。従って、まずは、それぞれの組織において、PDCA※に取り組み、活動を推進していくことになります。

各々のPDCAの取り組みの結果、単独では解決が困難な課題や、広域かつ組織を超えた連携が必要な活動について、日常的な結びつきから考えると地域住民はまず市町と、緑花関係機関はまず県民局と協議することになると考えられます。そこでも問題が解決しないような場合は、今後は「あわじ総合緑花プラン推進会議」で、協議します。

また、このプランに掲載されている広域的な取り組みや、それぞれの連携、協力が重要となる施策、また行政の予算化が必要になる支援策などについては、この推進会議で取り組み状況を確認することとします。

※PDCA=plan（計画）、do（実行）、check（評価）、action（反映）のサイクル。
計画を推進していくにあたって、実行したあときちっと評価をし、反映させながら進めていこうとする



■あわじ総合緑花プラン取り組み一覧表

	取組時期			目標との関係(◎=関連性が強い、○=関連がある)						取り組み主体		
	短期 ～H 18	中期 ～H 22	長期 ～H 26	①花 いっ ぱい	②文 化	③人 育む	④安 全・ 安心	⑤産 業	⑥交 流	地域 住民	関連 機関	行政
1 淡路らしい緑花の取り組みの推進												
(1) 人と自然のつながり												
① 自生種・地域産材を用いて手間がかからず変化のある淡路らしい花壇づくり												
○ 緑と花のパテンスを考えた花壇づくり				◎	○					◎	○	○
○ 淡路本来の自然の姿を取り戻す自生種や地域産材を使ったモデル花壇づくり				◎	○					◎		○
○ 淡路らしい花壇づくりマニュアルの作成				◎	○						○	◎
○ 自生種活用促進のための緑花資材の供給体制づくり				◎				○			○	◎
② 自然体験を通じて子どもを育てる												
○ 緑花学習教室の開催						◎			○	○		◎
○ 里山づくりや地域の自然環境とのふれあいの取り組みの実施						◎			○	◎		○
③ 環境に配慮した資源循環型緑花の推進												
○ ゼミは出さない、次につなげる堆肥づくりの推進				◎						◎		○
○ 食品残渣などを利用した堆肥の利用推進				◎				○		◎	○	○
○ 土のリサイクルの推進				◎						◎		○
④ 緑花活動を環境保全・地域保全につなげる												
○ 葉の花エコプロジェクトの推進				◎						◎		◎
○ 水田や圃田、ため池等の畦畔法面の景観植物の植栽の推進				◎						◎	○	◎
○ 休耕田の活用推進				◎						◎		◎
○ 緑花活動を沿道の自生種保全の取り組みにつなげる				◎	○					◎		◎
○ 二酸化炭素削減のための駐車場緑花等の推進				◎						◎	○	◎
○ 里山放棄地の管理と街角の花壇づくりなどをつなげる				◎						◎	○	◎
○ バイオマスエネルギー活用のおくみづくり				◎				○		◎		◎
⑤ 緑花活動を景観づくりにつなげる												
○ 河川沿道などに桜や低花木などで修景する				◎	○				○	◎	○	◎
○ 視認性の高い斜面を緑花して景観向上につなげる				◎	○				○	◎	○	◎
○ 花や実の美しい楽しみのある果樹を活用した耕作放棄地の修景				◎	○				○	◎	○	◎
(2) 人と人のつながり												
① 人手不足を解消するため人材をつなげる												
○ 生きがいづくりの場として緑花活動への参加を促す取り組み									○	◎		◎
○ 地元の各種学校との連携									○	◎		◎
○ あわじ緑花エコマナーの運用									○	◎		◎
○ 緑花人材バンクのしくみづくり									○	◎		◎
○ 組織の運営、コーディネートする人材育成講習会の開催									○	◎		◎
② 緑花で全島をつなげる場づくり												
○ 「緑花フォーラム」の開催				◎					○	◎	◎	◎
○ 緑花コンテスト、コンクールの開催				◎					○	◎	◎	◎
○ 全島一斉の緑花イベントの実施				◎					○	◎	◎	◎
○ 自生種を取り入れた花壇コンテストの開催				◎					○	◎	◎	◎
○ 「花づくりリーダー交流会」の開催				◎					○	◎	◎	◎
③ 緑花の恵し効果を活用し、人と人との交流を深める												
○ 日常の緑花活動を福祉につなげる						○	◎			◎	○	◎
○ 施設での緑花と福祉の推進						○	◎			◎	○	◎
○ 緑花活動を通じての世代間交流の促進						○	◎			◎	○	◎
○ 島外からの緑花体験希望者の受け入れのしくみづくり									○	◎	○	◎
④ 淡路から全国へ～淡路らしい緑花の発信～												
○ 花いっぱいの美しい島に向けた修景緑花の推進				◎					○	◎	◎	◎
○ 「春は菜の花、秋はコスモス」などのキャッチフレーズによる全島的な緑花活動の推進				◎	○					◎	◎	◎
○ オープンガーデンの活動充実				◎						◎	◎	◎
○ 情報発信の窓口をつくる				◎					○	◎	◎	◎
○ 地域ごとの淡路のシングルフラワーの選定				◎	○					◎	◎	◎
○ 淡路緑花CI計画づくり				◎	○					◎	◎	◎
⑤ 緑花以外の楽しい取り組みを考える												
○ グループではじめるパソコン教室						◎			○	◎	◎	◎
○ 花づくりの楽しみを増やす写真講習				◎	○					◎	◎	◎
(3) 人ともの・わざのつながり												
① 循環型の緑花を目指す												
○ 種から苗を育てる				◎					○	◎	◎	◎
○ あわじもったいない市の開催				◎					○	◎	◎	◎
○ 花メーリングリストの配信による花苗・情報交換				◎					○	◎	◎	◎
② 活動資金・資材を確保する												
○ 資金確保の取り組み				◎					○	◎	◎	◎
○ 県民緑税の活用				◎					○	◎	◎	◎
○ 補助制度の見直し				◎					○	◎	◎	◎
○ アドプト制度の積極的な利用と施設花壇の管理委託の推進				◎					○	◎	◎	◎
③ 淡路の緑花匠のわざを継承する												
○ 水やり技術の創意工夫						◎	◎			◎	◎	◎
○ お互いに持っている技術を紹介する「セミナー・講習会」の開催						◎	◎			◎	◎	◎
○ 緑花技術講習会の開催による人材育成						◎	◎			◎	◎	◎
○ 技術指導者の育成				◎						◎	◎	◎
2 継続的な緑花の推進のしくみづくり												
(1) 推進体制づくり												
① 緑花活動に携わる者の話し合いの場「あわじ総合緑花プラン推進会議」の開催												
○ あわじ総合緑花プラン推進会議の開催				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
○ 様々な実行委員会などによる緑花活動の展開				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
② 中間組織の体制強化												
○ 地域で核となる中間組織の継続と育成						◎	◎			◎	◎	◎
○ あわじ総合緑花プラン推進会議の事務局機能の移行				◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
(2) 「あわじ総合緑花プラン」の進捗管理のしくみづくり												

